

2019年3月25日（月曜）

全労金2019春季生活闘争ニュース・第16号

全労金「統一闘争」は最終交渉期間に突入！

最後まで要求への拘りを持って闘いを進めよう！

◎残り3日！誠意ある回答を求め、組合員の団結で闘いを進めよう！

全労金2019春季生活闘争は、回答期限日まで残り3日となりました。今週は、単組・組合員が納得できる回答を引き出すための最終交渉期間としています。また、金庫・関連会社が翻意しない場合は、要求獲得に向けた交渉戦術（※交渉体制や交渉日程の見直し、争議行為の行使等）を検討し、闘いを進める期間となります。

この間の交渉では、金庫・事業体より、正職員の賃金改善に対して7単組で、嘱託等職員の賃金改善に対して11単組で、「有額回答」の考えが示されています。一方で、他金庫や連合に結集する他組織の結果を踏まえ、残念ながら、いまだに「将来的な収益環境が不透明（※上昇するめどがない）」等を理由に、要求に応じない金庫もあります。

事業を運営するうえで、「将来的な収益環境」に、見通しが立っていることはあり得るのでしょうか。いつの時代も先行きは不透明で、見通しが明るいことなど分かるはずがありません。仮に、この先1～2年は収益に見通しが立っていたとしても、いつリーマンショックのような海外も含めた市場の乱高下がやってくるかはわかりません。

私たちは、金庫で働く職員であり、会員と同じ労働組合という2つの側面を持ったステークホルダー労働金庫を発展させるとともに、そこで働く職員が働き続けたいと思える職場とすることが、ひいては会員・勤労者の「夢と共感を創造する」ことに繋がることの確信をもって闘いを進めています。

金庫・事業体との交渉では、「厳しいから応じられない」ではなく、「どうしたら応じることができるのか」といった前向きな議論を強く望んでいます。金庫の経営陣には私たちの要求から「逃げる」ことなく、正面から向き合うことを強く要望します。

全労金は、数年ぶりに「統一要求」を掲げていること、とりわけ10年ぶりに正職員の基本賃金改善を掲げていること、等を踏まえ、第三次交渉期間から全単組との連携を深め、交渉状況の把握と全国の交渉状況を含めた単組への支援を展開しています。

自単組、自金庫、自職場で起こった問題・課題は全国に波及することが多くあります。そうさせないためにも、全労金組織が一丸となって、全労金2019春季生活闘争を悔いのないように闘いを進めましょう！

※次号は3月26日（火）以降に配信予定です。

※全労金HP (<http://www.zenrokin.or.jp/>) もご覧ください！

以上